

「社会運動情報資源データベース」の拡充について

データベース作成委員会

データベース作成委員会（委員長大日方純夫）では、二〇一四年度・二〇一五年度・二〇一六年度に日本学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の助成を受け、「社会運動情報資源データベース」（以下「社会運動DB」）の作成と公開のための作業を行ってきた。また、二〇一七年度にも、引きつづき同科研費の助成を受けることとなり、同DBの拡充を進めている。

なお、社会運動DBの概要と二〇一六年度までの進捗状況については、データベース作成委員会「社会運動情報資源データベース」の一部公開について」（『早稲田大学史記要』第四七巻）、同「社会運動情報資源データベース」の拡充について」（同第四八巻）で詳述されている。それを踏まえ、ここでは、二〇一七年度までの公開状況と作業進捗状況を報告する。

一 データベースの登録・公開状況

社会運動DBは、二〇一〇年度の科研費助成によって作成・公開された「保守と革新の近現代史データベース」（以下「保革DB」）の成果を継承・発展させ、早稲田大学が所蔵する社会運動関係資料を公開すべく構築されたものである。すなわち、データベースのタイトル標記は、公開当初のまま保革DBとなっているが、そこに含まれる目録データ・画像データは、社会運動DBの計画によって逐次増補されている。二〇一〇年度の保革DB、ならびに二〇一四年度・二〇一五年度・二〇一六年度の社会運動DBによってデータベース化を図り、現在までに公開に至った資料群・資料件数を示せば、以下の通りである。

保革DB 二〇一〇年度データベース化資料群・件数

①堤康次郎関係資料

七、五六四件

②日本社会党関係資料

八七〇件

合計 八、四三四件

社会運動DB 二〇一四年度データベース化資料群・件数

①安部磯雄文庫

五三八件

②風見章関係文書（二〇〇五年度寄贈分）

一九二件

③ 日本社会党関係資料

三、二六九件

④ 大山郁夫関係資料（大山家寄贈分）

一、六六二件

合計

五、六六一件

社会運動DB 二〇一五年度データベース化資料群・件数

① 浮田和民文庫

一、九一六件

② 日本社会党関係資料

三、四二七件

合計

五、三四三件

社会運動DB 二〇一六年度データベース化資料群・件数

① 堤康次郎関係資料

二、四六六件

② 日本社会党関係資料

二、〇〇一件

合計

四、四六七件

二〇一六年度までにデータベース化を終えたデータ件数は、合計二三、九〇五件となる。

二 データベースの拡充と今後の計画

冒頭でも述べた通り、データベース作成委員会は二〇一七年度も科研費の助成を受け、社会運動DBの拡充を進めている。データベース化の対象となっているのは、次の資料群である。

社会運動DB 二〇一七年度データベース化資料群・件数（予定）

・ 日本社会党関係資料

七、〇〇〇件

合計

七、〇〇〇件

「日本社会党関係資料」のデータベース化は、二〇一〇年度保革DB以来の継続事業であり、本計画の中軸をなすものと位置づけられている。二〇一七年度は同資料群のデータベース化推進に注力することとなった。

さて、前巻の報告（「社会運動情報資源データベース」の拡充について）でも触れたように、保革DB・社会運動DBの公開方法が変更されることになった。保革DB・社会運動DBの公開は、従来、「早稲田大学文化資源情報ポータル」を利用して行われてきたが、二〇一七年六月より、早稲田大学の各博物館・図書館等の所蔵資料を公開する新プラットフォームとして、「早稲田大学文化資源データベース」の運用が開始された。現在、保革DB・社会運動DBを「文化資源データベース」へ移行するための最終調整を行っており、本稿所収の『早稲田大学史記要』第四九巻が刊行される二〇一八年二月末までには、移行が完了している見込みである。

「早稲田大学文化資源情報ポータル」から「早稲田大学文化資源データベース」への移行に伴い、ユーザーインターフェースやレイアウト等が一新されるとともに、資料の検索・閲覧機能をはじめ、利便性は大幅に向上している。今後の保革DB・社会運動DBの閲覧については、「早稲田大学文化資源データベース」を活用いただきたい。URLは次の通りである。

早稲田大学文化資源データベース <http://archive.waseda.jp/archive/>